

呼吸する皮膚

都市の駅前では、スマホを見ながら歩いている人、通りに通って行く人もよく見かける。セックから出て外を歩いている通勤客などの時間が、もっと自然のうつらを感じられる空間であってほしい。ここでは自然と人々の関係の新しいつらぎを、自然環境と対応する空間のようなのを考える。レインスーツのような防水透湿素材と繊維の糸を組み合わせた素材によって創られたこの空間は、風や雨などの自然環境の変化に、その空間そのものが応答する。人々を驚かす。それにより人々は、この空間を通して身体的・精神的に自然の恵みを受けることができる。

00. 今日的な都市の駅前空間へ

駅前には商業ビルが立ち並び、近年開発により駅、駅前空間は整備され色んなビルが生まれた。ストリートビューのシーンなどもよく見られる。一度通り上りを見ているが、そこには人々との交流はない。バス待ちの人も乗客などもいじり合い空間にただ居るだけの存在となっている。大きな歩道はただ人々を受け入れる場としての役割にすぎない。この空間が人々を驚かし呼吸するかのようになり、自然と人々の関係とにも駅前空間をデザインする。



01. レインスーツ × 蜘蛛の糸

自然環境に呼吸する皮膚のようなエクステリアを構想するとき、僕らはレインスーツのような防水透湿素材に着目した。

この素材はePTFEフィルムとポリウレタンポリマーでできていて、人の動きや外壁との摩擦を耐える耐久性と繊維として繊維性を併せ持つ。それにより風に揺れめく建築素材としての可能性を感じる。さらに防水透湿素材なので雨などを防ぎつつ空間にミストが降り注ぐ。そこに光が乱反射するような魅力を生み出したいと考えた。

さらにそれを形態として成り立たせる素材として蜘蛛の糸に着目した。現在蜘蛛の糸は繊維としてもよく使われ、高い伸縮性や耐熱性を併せ持つ素材として宇宙服などの素材としても活用されている。この素材を張りめぐらせることで、伸縮する空間の魅力と形態の維持耐久性を両立する。

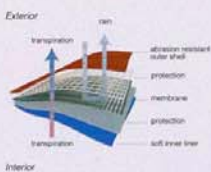
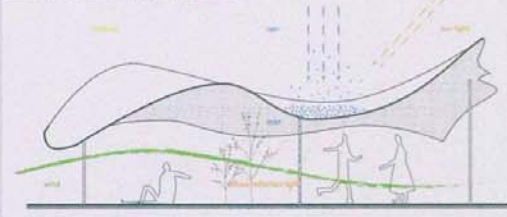


図1 レインスーツの素材断面

02. 呼吸するように自然環境に呼吸する皮膚



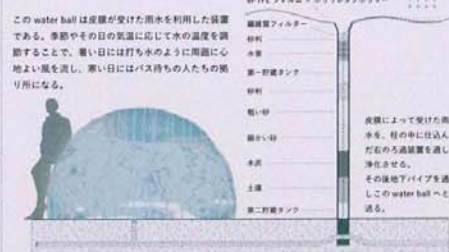
この皮膚は、風や雨に揺らぐことで空間そのものが変化する。そこに光が差し込み人のアクティビティが内包されるとき、都市の駅前にも豊かな場を生み出す。

03. 通和駅前空間の配置構想

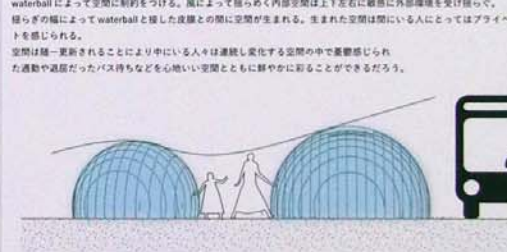
全体図である。1つ1つ空間は連続して繋がっている。1枚の膜で空間演出がされておりそれが連続的に繋がっている空間はより駅前空間を豊かにするだろう。もともと広さがあり芝生とした空間だったが皮膚やwaterballにより空間に変化をもたらす。自然に呼吸しながら更新されていく。芝生とした空間は人の手動せぬ動きにより様々な空間が生まれ季節ごとの空間の糸として生まれてくる。ロマンチックに生まれ変わる駅前空間である。



04. 皮膚によって受けた雨水の利用 -water ball-



05. 皮膚の自然的うつらによる空間の変化



06. 自然の変化の下で営まれる人々のアクティビティ -Pop up store-

一定期間ごとに入れ替わるポップアップストア。現在駅前で行われているストリートミュージシャンによる路上ライブや地域のイベントなどは、駅を通りゆく人々に様々な楽しさを提供する。それが自然環境と共に移ろう皮膚の空間の下で行われるとき、時間の変化の中で自然と人の二つの変化が組み合い、より自然のやすらぎを感じられる空間となる。そしてその自然のやすらぎの下で行われるこれらのアクティビティは、現在のそれより魅力的なものになる。



07. 日常のひとつに自然の変化を感じさせる種設計画

四季の移り変わりと共に変化する種をあらかじめ計画することで、時期ごとに多様な種を演出する。それらは日々都市の駅前空間を利用する人々に、四季と共に起こる自然の種の中で生きていることを感じさせる。

